

1 学校名・学年	美作市立英田中学校 第1学年
----------	----------------

2 カリキュラム開発の基本的な考え
 自分や身の回りの差別や矛盾に気付かせ、それをみんなの問題として考え、解消するために努力する態度を育てることを目標とし、以下のことに重点に取り組む。
 身近な人権にかかわる課題に関心もち、自分で課題を見付けようとする力を養う。
 仲間の意見を聞き、それぞれの考えを認め協力して解決していこうとする力を養う。
 自分の考えをまとめ、相手に分かりやすく発表できる力を養う。
 課題の追究を通して、自分の生き方を見つめ、学んだことを生活に生かす力を養う。

3 実践の概要

(1) 単元の全体構想(単元名, ねらい, 構想, 指導計画, 評価)

単元名

・「障害者理解」「人権学習(いのちの学習)」

ねらい

- ・障害のある人への理解を深め、互いに協力し合い、共感をもって共に生活できる社会の実現を目指す生徒を育成する。
- ・各班ごとに生徒が自主的に課題に取り組み、それぞれの問題を解決する力を養う。
- ・学習内容をまとめ、他の人に分かりやすく伝える工夫をして発表する。

構想, 指導計画, 評価

「人権について知る」 (6時間)	「調べ、体験する」 (17時間)	「発表・まとめをする」 (11時間)
<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・VTR「新ちゃんが泣いた」視聴 ・読み物教材「天使のような美樹」の学習 【評価】 	<ul style="list-style-type: none"> ・「車いす」「高齢者疑似」体験 【評価】 ・各班ごとに、調べるテーマの決定 ・パソコン、図書室を使って調べる ・校外に出て調べる(福祉施設訪問、高齢者に取材など) ・各班ごとに、調べた内容をもとに、どのような形態の発表にするか検討 【評価】 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班ごとに、発表に向けての資料作り、原稿作り ・発表に向けての練習 ・「文化発表会」(「人権学習」の発表) 【評価】 ・発表会の反省 【評価】 ・人権標語作り、各班ごとの人権新聞作り 【評価】

(2) 活動の実際

(学習活動〔体験活動・交流活動の様子を含む〕, 評価)

時数	学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価	教科等の関連
1	オリエンテーション ・総合的な学習の時間のテーマやねらいについての説明を聞き、自分なりのイメージをつかむ。	学習全体の流れを生徒に分かりやすく説明し、学習に対する意欲がもてるようにする。	きちんと話を聞き、自分がこれから何をすればよいのか理解できたか。	
5	「障害者理解」 ・VTR「新ちゃんが泣	障害があるから、かわいそうだという	集中してVTRを見ることが	道徳 「思いやり 項目 2-

	いた」、読み物教材「天使のような美樹」を学習することにより、障害のある人に対する正しい理解を深め、思いやりの心をもって接する気持ちをもつ。また、人間は一人ひとりが、かけがえのない存在であることを知る。そして、障害のある人の生き方から学ぶ。	考えにならないようにする。 どんな人にもすばらしい面があることを考えることができるようにする。 この人たちの生き方を学習し、自分は今からどうしていけばいいのかを考えることができるようにする。	できたか。 障害のある人の生き方について、積極的に学ぼうとしたか。 これからの自分について考えることができたか。	(2)」 資料名「天使のような美樹」 互いにかけていない存在だと知り、互いを思いやる気持ちを育てる。
2	「権利の熱気球」「難破船ゲーム」の学習 ・様々な権利があることを知る。 ・人それぞれに考えが違うことを尊重する。 ・自分にとって大切なものを知る。	教師の押しつけにならないようにする。 他の人の考えを尊重させる。	自分の気持ちを知り、相手の気持ちを尊重できたか。	学活 「権利の熱気球」「難破船ゲーム」 自分の気持ちを素直に表現する。
1	DVD「レーナ・マリア・ヨハンソン」の視聴 ・障害のある人の生き方に学ぶ。	この人の生き方から生徒に自分の生き方考えることができるようにする。	集中してVTRを見、自分の生き方を考えられたか。	音楽 ゴスペル
2	「車いす」「高齢者疑似」体験をする。 ・疑似体験を通して、障害のある人や高齢者、福祉について考えるようにする。 ・体験の感想をお礼の手紙にまとめる。	体験活動を通して、障害のある人や高齢者の大変さ、また福祉について課題意識をもつことができるようにする。	体験活動をするることにより、障害のある人や高齢者の大変さ、福祉について課題意識をもつことができたか。	国語 「ユニバーサルな社会を目指して」 だれもが生活しやすい生活のあり方について考える。 美術 人権ポスター
12	上記の学習を基に、班ごとに調べるテーマを決定し、それぞれの方法で活動する。 ・パソコン、図書室の使用 ・校外で調べる（福祉施設訪問、高齢者への取材など） 調べた内容を、どのような形で発表するか、班で検討する。	自分たちが決めたテーマに沿った活動ができるようにする。 活動が行き詰まった時には、適切なアドバイスを与え、方向を修正できるようにする。 それぞれの活動の中で、自分自身を振り返り、人権について考えることができるようにする。	自分たちが設定したテーマを追究することができたか。 活動中に仲間と相談し、協力して課題解決に努力できたか。 活動を通して、自分を見つめ直すことができたか。	国語 「図書室の使い方」 技家 コンピュータの使い方、インターネットの使い方 ユニバーサルデザイン 社会 身近な地域を調べる。 英語 ミビのうちで(点字) 国語 意見を交換し、考えを深める。 社会 高齢化社会と少子化問題
11	発表の準備、発表、まとめをする。 ・今まで取り組んできたことをもとに、班ごとに発表の資料作り、原稿作りをする。 ・発表練習をする。	今までの活動が活かされたものになっているか、考えることができる。 班の中での分担をきちんとさせ、みんなでき発表できるようにする。	今までの活動内容を整理して、きちんとまとめることができたか。 班の中で協力し、きちんと分担し	国語 ・自分たちの課題を、きちんとした文章にする。 ・発表会までの手順を考え、話し合う。 ・様々な発表の形態を知る。

<ul style="list-style-type: none"> ・「文化発表会」(「人権学習」の発表) ・発表会の反省をする。 ・発表会のまとめとして、人権標語作り、人権新聞作りをする。 	<p>にする。</p> <p>班の中できちんと協力した発表になるよう助言する。</p> <p>それぞれの機器の使い方はアドバイスを</p> <p>他者の発表もよく聞くことで、自分を振り返ることができるようにする。</p> <p>発表の反省、まとめが大切になるので、そのことを理解させ最後まできちんと取り組むことができるようにする。</p> <p>反省、まとめを通して、自己を振り返り、今後の生活を考えることができるようにする。</p>	<p>た発表になったか。</p> <p>自分たちが調べたことを、きちんと伝えることができたか。</p> <p>他者の発表を聞き、自分のこととして考えられたか。</p> <p>発表の反省に、きちんと取り組めたか。</p> <p>人権標語作り、これまでの学習を生かして取り組めたか。</p> <p>班の仲間と協力して、自分たちの学習をまとめた人権新聞ができたか。</p>	<p>道徳 他の班の考えを尊重し、互いを大切にすることを育てる。</p> <p>学活 人権標語を作ることにより、今までの学習を振り返る。</p> <p>国語 自分たちが調べた内容を、分かりやすくまとめる。</p> <p>国語 表現の仕方</p>
---	---	---	---

4 成果と課題

成果

- ・初めての発表で戸惑う場面も多かったが、時間が経つにつれて、協力して取り組むことができるようになった。
- ・車いすなどの体験学習では、地域の福祉施設で働く人と交流することができた。生徒は具体的、実践的なアドバイスを得ることができ、今後の生活に生かそうとしたり、発表の参考にしようとするなど意欲的に取り組むことができた。
- ・身近な人権について、知的理解で終わるのではなく、体験活動を取り入れることにより、相手の気持ちを大切にしようとする姿勢が見られるようになった。
- ・体験活動を通して、自分の生き方を振り返り、これからの生活に生かそうとする生徒も見られた。

課題

- ・体験活動を行うことは、生徒にとって大変意義のあることだが、年間を通しての時間を確保することが難しい。
- ・体験学習や交流学习を実施するためには、事前に地域、関係諸機関との連携を図ることが重要である。
- ・この活動で生徒が得たものを、さらに伸ばしていくためには、その後の指導が大切になるので、それを踏まえた系統立てた体系を作る必要がある。